

## 座してチェンジは望めない、まずは行動を！

### 民主党政権に積極発言を

4年ぶりの総選挙は、民主党の地滑り的な圧勝で終わった。本稿執筆段階でまだ民主党政権は誕生していないが、9月16日召集の特別国会冒頭の首班指名を受けて鳩山由紀夫代表が第93代内閣総理大臣に就任、その夜のうちに組閣を完了して政権交代が実現する。

民主党は今回の選挙を戦ったマニフェストに掲げた「5つの約束」のうち「雇用・経済」の項で「地球温暖化対策を強力に推進し、新産業を育てます」と明記していた。また、55項にわたって展開した個別政策の42～45項に「地球温暖化対策の強力な推進」「(再生可能エネルギーの)全量固定価格買い取り制度導入」「環境に優しく質の高い住宅の普及」「環境分野などの技術革新で世界をリード」などを列挙している。

特に地球温暖化対策では、焦点の2020年温室効果ガス削減目標を90年比25%に設定した。科学の要請である「25～40%」からみれば最低ラインだが、麻生内閣が掲げた同年比8%に比べれば格段に前向きな目標であり、これを日本政府が正式に表明すれば、年末のCOP15における世界の合意への機運を著しく加速することは疑いない。7日、温暖化関連のシンポジウムでこの公約実現に強い意欲を示した鳩山党首の発言には、早くも世界から歓呼の反応が相次いだ。

その他、キャップ&トレード方式の国内排出量取引市場創設、前述の固定価格買い取り制度導入、さらには地球温暖化対策税(≒炭素税)導入など、ここに挙げられた政策はいずれも我々環境市民団体が主張してきた内容であり、もちろんすべて支持できる。財界の意向を受けこれらにことごとく消極的だった自公政権とは雲泥の差だ。今回の政権交代、地球温暖化対策に取り組んできた人々にとり、まずは朗報と言って良いだろう。

だが、手放して喜ぶのは早い。民主党政権には乗り越えてもらわねばならない問題が二つあるからだ。

まずひとつは実行力の問題。選挙結果をうけ経団連は

2日、押っ取り刀で臨時の正副会長会議を開き、民主党に対し地球温暖化政策での翻意を促すことで一致したという。今月下旬に開かれる国連総会などで、鳩山首相が25%削減を公約してしまったら大変というわけだ。経団連は最低賃金引き上げ方針などでも見直しを働きかける考えで、誕生したばかりの政権に相当な圧力となることは間違いない。自民党と同じ財界スタンスのメンバーも多く抱える民主党が、この圧力を跳ね返すことができるだろうか。

ふたつ目の問題は政策の整合性。民主党はこのように積極的な温暖化対策を打ち出す一方で、例の高速道路無料化やガソリン税ほか自動車関連諸税の暫定税率廃止など、温暖化対策に逆行する政策も打ち出している(マニフェスト29・30)。これは、同党の地球温暖化についての認識がなお個別対策のレベルにあって、長期的な国づくりビジョンの根底に低炭素社会がしっかりと座っていないことを、はしなくも物語っている。

今回の選挙で政変を引き起こしたのは、構造改革路線に怒って投票所に足を運び投票率を小選挙区制導入以来の最高値に上昇させた有権者の巨大な政治参加だった。だが、有権者の政治参加の方法は投票に限らない。議員に直接話す手もあれば、手紙や電子メールで発言する方法もある。(民主党のWEBサイトではトップページから簡単にメールを発信できる)

変化はまだ始まったばかりだ。政権交代を実現した今、この国の有権者に問われているのは、内実豊かに政権選択の第2章を創出してゆく日常的で広範な政治参加ではないか。民主党政権には前述の通り積極面も弱点もあるが、積極面は激励して実行を促進し、弱点は批判して正してゆこう。座してチェンジは望めない。まずは行動ありきなのだ。

重栖 隆 (代表理事)



## COP15～コペンハーゲンまで3ヶ月

# 地域の温暖化防止活動

## 「幸せの集いin 湯浅」で啓発活動

7月20日（祝）、湯浅町駅前のパチンコ跡地で湯浅町在住の若者たちが中心となり、手作りのイベント「幸せの集いin湯浅」が行われ、紀中の県温暖化防止活動推進員2名が自転車発電「和っ人君」と共に参加しました。会場では、地元に加え和歌山市や海南市、田辺市から



オーガニックや、フェアトレードのお店が出店、ステージでは、ヒップホップライブや〇×クイズが行われました。地元の小学生や、近所のおじちゃん、おばちゃんたち、湯浅を訪れた観光客などが楽しみました。「奈良県地球温暖化防止活動推進センター」の事務局長夫妻も観光に訪れていて、イベントに立ち寄られ偶然の出会いもありました。「和っ人君」を熱心に研究しておられました。



当日の早朝、豪雨でぎりぎりまで開催が危ぶまれましたが、雨は上がり時々太陽が覗く曇り空の中、無事、イベント開催できました。しかし、準備していた太陽光熱でクッキングができる「ソーラークッカー」が登場できなかったのは残念でした。

アットホームなイベントでしたが、紀中では久しぶりの温暖化防止啓発活動でした。

報告 清水 友

## 環境月間、JR粉河駅にて街頭啓発！

紀の川市地球温暖化対策協議会「エコネットきのかわ」は6月の環境月間活動として26日にJR和歌山線粉河駅にて啓発活動を行いました。この活動は昨年にも続いたので、スタッフは市役所職員も含めて10名。230部の環境啓発チラシと気候保護法署名用紙を準備して夕方の5時から始めましたが、約1時間半でチラシを完配、また署名も約100名から頂きました。乗降客や商店街の方々の反応もよく、温暖化防止への周知が出来たと思います。

今回のチラシ特集は、「地球温暖化によって脅かされる水と私たちの生活」と題して、深刻化する地球温暖化によって、地球上の「水」に様々な変化があらわれ、①農業用水の減少、②生活用水の減少、③工業用水の減少、④水災害の発生など、私たちの生活を脅かす異常気象を取り上げています。今年8月の九州・中国地方で起きた局地豪雨は大災害をもたらし、多くの痛ましい犠牲者が出たことは皆さんの記憶にも新しく、自然のきびしさとその驚異には大災害が起こるたびに思い知らされます。今後、私たちを取り巻く環境は、ますます変化しきびしい対応を迫られますが、温暖化を防止することは、今を生きる私たち世代の責任です。将来の子どもたちが持続可能な安全・安心の社会を築いて行けるよう、みんなが一致協力することでCO2を大きく削減しなければなりません。

報告 中川皓次



# 「環境フォーラム in 紀南」

8月30日(日)上富田文化会館において、「環境フォーラム in 紀南」を開催しました。このイベントは、この地域の方々に環境の大切さや温暖化に対する認識を深めてもらうために実施しました。

午前10時から、県内で活動する17の環境関係団体それぞれの活動を紹介するパネルやリサイクル作品の展示、販売を行いました。中でも和歌山市にあるNPO法人えこなびとが作製したソーラーカー「太陽の恵みちゃん」は歩行者用の電動車の屋根にソーラーパネルを載せたもので、試乗した子どもたちに大



変人気でした。また、わかやま環境ネットワークの発電自転車「和っ人くん」は、ペダルをこぐとその回転に応じて電球が点灯するもので人間の力を電気に変換する大変さを実感することができます。



講演する田中優氏

午後7時からは、「未来バンク」代表の田中優さんによる講演会がありました。タイトルは「エコで平和な暮らし方」。田中さんの主張である「平和を考えない環境活動は意味がない」との趣旨から、石油にあまりにも依存している現代の社会が温暖化をはじめ、戦争などの問題を引き起こしており、このため、国の施策や私たち一人ひとりの考え方、その行動も変えていかなければいけないと熱っぽく話しかけました。会場からの質問にも的確、明確に答えられ、あっという間の2時間でした。この日はあいにく衆議院議員選挙の投票日でしたが、約100名の方の参加がありました。



報告 松下精二



## レジ袋削減へ5業者が新たに参加

私たちNPOわかやま環境ネットワークも参加する「わかやまノーレジ袋推進協議会」(和歌山県、県くらしの研究会、県JA女性組織連、県生活学校、県婦連、県市長会、県町村会)と、県内スーパーなどレジ袋を多く消費する事業者が、昨年12月2日に「レジ袋削減協定」を結び、今年1月23日からレジ袋の無料配布中止を実施しています。(下:株)オークワとの協定書)

このたび、新たに次の5事業者28店舗が参加し、レジ袋無料配布中止第二弾が10月1日(木)にスタートします。この間、「断固無料配布する」と協定を固辞する業者がある中、今回新たに5事業者が参加したことは重要な前進であり、和歌山県の努力と、この運動に参加している事業者の決断に心からエールを送ります。同時に、私たち市民・環境団体が「グリーンコンシューマー」運動をさらに進めることが大切ですね。

和歌山県におけるレジ袋の削減に関する協定	
株式会社オークワ、わかやまノーレジ袋推進協議会、協定参加市民団体、県内町村及び和歌山県は、県民の健康意識の高揚を図り、ごみの排出抑制・CO2削減による地球温暖化の防止を推進し、循環型社会システムを構築するため、この協定を締結し、協定して以下のとおりレジ袋削減に取り組みます。	株式会社オークワ 代表取締役社長 高野 英也 代表取締役副社長 金子 泰純 代表取締役 南 玉 初代 代表取締役 小谷 文子 代表取締役 湯田 千鶴 代表取締役 丹 下 一 子 代表取締役 佐 藤 隆 代表取締役 長 明 光 敏 代表取締役 奥 日 貢 代表取締役 仁 坂 吉 伸
1 株式会社オークワは、平成21年1月23日から、レジ袋の無料配布を取り止め、お客様に対してマイバッグ等の持参を呼びかけ、平成23年3月31日までにマイバッグ等の持参率80%以上を目指します。	
2 株式会社オークワは、レジ袋収益金を環境保護活動や地域貢献活動などに還元し、その内容を公表します。	
3 株式会社オークワは、マイバッグ等の持参率を、定期的にわかやまノーレジ袋推進協議会に報告します。	
4 市民団体は、株式会社オークワが実施するレジ袋削減・無料配布中止の取組を積極的に支援します。また、マイバッグ等の持参によるレジ袋削減を積極的に呼びかけます。	
5 県内町村及び和歌山県は、株式会社オークワが実施するレジ袋削減・無料配布中止の取組を積極的に支援します。また、マイバッグ等の持参によるレジ袋削減を積極的に呼びかけます。	
6 この協定に定める事項について変更しようとするとき、この協定に附随し生じたとき、又はこの協定に定めのない事項については、協定締結時と同様の趣旨の上、定めるものとします。	
7 この協定の有効期間は、この協定締結日から平成26年3月31日までとします。	

平成20年1月2日

### 【既に実施している事業者】

(31事業者192店舗)

- ・イオンリテール(株)「ジャスコ」
- ・(有)清水ショッピングセンター
- ・(株)ヒラマツ
- ・イズミヤ(株)
- ・新屋農園
- ・Vショッピングチェーン協同組合
- ・(株)エコープ近畿
- ・(株)スーパーサンワ
- ・(株)プラス「産直市場よってって」
- ・(株)MLC「業務スーパー海南店」
- ・(株)大栄「業務スーパー田辺店」
- ・企業組合北紀
- ・(株)オークワ
- ・(株)ダイエー
- ・「紀北手作り総菜さくら」
- ・(株)勝浦オークワ
- ・太地町漁業協同組合漁協スーパー
- ・(有)マエオカストア
- ・(株)岸商店「業務スーパー白浜店」
- ・(株)たかす「バリューハウス」
- ・(株)松源
- ・紀州ログの森広場「フレッシュハウス」
- ・(株)森山薬局
- ・(株)グルメシティ近畿
- ・佃商店
- ・吉野ストア(株)
- ・古座川産品直売所みんなの店
- ・(株)デンカン「スグラデンカン」
- ・和歌山県Aコープチェーン
- ・(株)サンキョー
- ・(株)ヒダカヤ
- ・わかやま市民生活協同組合

### 【新たな実施事業者】・

- ・宇治田(株)「スーパーウジタ」
- ・(株)ゴトウ本店
- ・ママショップ(株)
- ・(株)キリン堂
- ・(株)ジップドラッグ (5事業者28店舗)

## 事務局だより

爽やかな秋の風を感じる今日この頃、事務局では、受講生の募集でヤキモキする推進員養成講座もお陰さまで30名以上が集まり、すでに2講が終了。「普及啓発・広報事業」では、リーフレット「どうすら？」(※)を作成(同封)しました。また、《環境フォーラムin紀南》も無事、成功のうちに終了。「一村一品事業」のコンクール募集締切り(9月15日)間近な今、応募件数もなんとか集まりつつあり、今年初の「OJT研修事業」も着々と進んでいるところです。

MAKE the RULEキャンペーンのアクションでは、8月12日、阿波踊り(【MAKE the RULE連】:写真)に参加し、地元、NPO環境とくしまネットワークの皆さんたちと一緒に大勢の人に温暖化防止活動をアピールしました。また、9月10日、温暖化対策の強化を表明した民主党新政権へ期待を込め30本(90年比30%以上をめざしてほしい旨)のバラの花束を贈りました。



※今回封筒代わりにお送りしたリーフレット(通称:どうすら?)は、新しく作成した温暖化防止啓発ツールです。みなさまの活動にもぜひお役立て下さい。追加部数ご希望の方は、事務局まで。ただし数に限りがありますので、ご要望に副えない場合がありますのであらかじめご了承下さい。

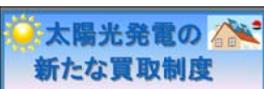


省エネ家電購入の際もらえる「エコポイント」を使って、わかやま環境ネットワークに寄附ができます。

詳しくは、

<http://eco-points.jp/EP/index.html>

をご覧ください。(9月18日から)



11月1日より「太陽光発電の新たな買取制度」がスタートします!!

### ■太陽光発電の新たな買取制度とは

太陽電池を使って家庭で作られた電力のうち自宅で使わないで余った電力を、1キロワット時あたり48円(※)で10年間電力会社に売ることができるようになります。買取りにかかった費用は、電気を利用する方全員で負担する「全員参加型」の制度となっています。この制度により日本の太陽光発電導入量を拡大することで、エネルギー源の多様化に加えて、温暖化対策や経済発展にも大きく貢献できるものと期待されます。

(※)当初は住宅用は48円、非住宅用は24円  
自家発電設備併設の場合は住宅、非住宅それぞれ39円、20円  
<http://www.enecho.meti.go.jp/kaitori/index.html>

## 当面の日程

- 9月13日(日)ホームエコ実践教室講師研修会(御坊市)  
推進員養成研修第3講@御坊商工会館  
クリーン和歌山コンサート@紀南文化会館(田辺)
- 9月15日(火) STOP温暖化木の国知恵の環コンクール募集締切  
COP15ネットワーク関西拡大世話人会@大阪
- 9月18日(金) エコポイント寄附受付開始
- 9月21日(月) 有田JC主催の環境イベント@ふるさとの川総合公園
- 10月4日(日) STOP温暖化木の国知恵の環コンクール県大会
- 10月5日(月) 事務局会議 @県立図書館
- 10月14日(水) 例会
- 10月18日(日) 推進員養成研修第4講@地場産業センター(和和)
- 11月5日(木) 日弁連人権擁護大会シンポジウム@県民文化会館
- 11月8日(日) 「STOP温暖化 講演会in紀の川」@近大(紀の川市)  
紀州推進員の会総会(同会場)
- 11月9日(火) 和歌山まるごと環境教科書紀の川ツアー(県主催)
- 11月11日(水) 例会
- 11月中旬 理事会
- 12月9日(水) 例会
- 12月10~17日 COP15@コペンハーゲン重栖参加  
2月 和歌山環境検定、一村一品全国大会

## エコキャップ回収事業者の名乗り 宮惣ケミカル

ペットボトルのキャップを集めて世界の子どもたちにポリオ・ワクチンを届けようという運動をご存じですか?集められたキャップは再生資源として利用され、その売却益がワクチンの購入資金となります。

和歌山県にはこれまで回収事業者がなかったのですが、わかやま環境ネットワーク会員でリサイクル企業の宮惣ケミカル株式会社が、このたび名乗りを上げ、回収を始めました。ゴミとして焼却処分されると、キャップ400個で3,150gのCO2が発生します。そのキャップは400個で10円になり、ポリオワクチンは1人分20円で買えるそうです。皆さん、ペットボトルの分別はすでにやられていると思います、次はキャップ集めに取り組んでみませんか?

キャップの送り先は、下記まで。

宮惣ケミカル 株式会社 上富田リサイクル工場 宮本 博行  
TEL 0739-47-4618 FAX 0739-47-4623  
〒649-2105

和歌山県西牟婁郡上富田町朝来字檜の木4051-47  
くわしくは、エコキャップ推進協会のホームページをご覧ください。

<http://ecocap007.com/index.html>

## 『持続可能な未来を求めてVol. 2』 富田貴史ワークショップ ～自分たちの手に力を取り戻すために～

- 9月21日(月)「暦と時間と私たちの暮らし」
- 9月22日(火)「ぶんぶん通信No.2」上映会、「お金とエネルギーと私たちの暮らし」
- 9月23日(水)「ククル」上映会、「私たちの暮らしに近づく 沖縄の自然」

【お問合せ】Cante del Sol 花田さん 073-444-2239  
カンタ・デル・ソル



ういねっと (わかやま環境ネットワーク通信) 第17号 (2009年9月10日発行)

発行: NPOわかやま環境ネットワーク

代表理事 重栖 隆

〒641-0051 和歌山市西高松1-6-4

電話 073(432)0234 FAX 073(432)3881

mail: wenet@vaw.ne.jp

<http://wenet.info/>

